

厚生労働省依存症対策総合支援事業

受診後の患者支援に係るモデル事業

各府県における実施状況

事業の基本情報

1. 事業期間

平成31年4月～令和2年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症
薬物依存症
ギャンブル依存症

} 入院・外来の方

3. 専門職員の職種と主な業務

精神保健福祉士

《業務》初診のインターク面接時または入院時に面接をし、本事業の説明と県内の依存症関連施設・自助Gの資料で情報提供を行う。施設等への同行支援。

各種相談支援、本人・家族を対象としたグループワーク実施。

4. 連携している民間支援団体等

断酒会 AA NA GA EA
横浜ダルク 川崎ダルク 相模原ダルク
湘南ダルク
横浜マック 川崎マック インダー¹
寿アルク BB たんぽぽ
RDP横浜
ヌジュミ 等

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

- ①「PSW講座」：1／月実施する社会資源等の紹介のプログラムに、連携している施設を招いて施設の説明を行う。18施設参加。
- ②「メッセージ」：断酒会、AA、NAのメンバーが院内でメッセージ活動を1／月実施。36回
- ③入院・外来のプログラム「SMARPP」にダルクメンバーを招きファシリテーター補助としてミーティングに参加してもらう。入院：26回 外来：14回
- ④「せりかや会」：毎年4月に断酒、AA等の団体と当院とで、依存症からの回復を目指すイベントを開催し、入院、通院中の方にも参加を呼びかけている。毎年100名以上の参加あり。R2年4月5日実施。

6. 取組の効果と今後の課題

- ・上記のように入院、通院者が依存症関連施設のメンバーと顔を合わせる機会を設け、必要に応じて施設や自助グループ等への見学や体験参加に専門職員が同行支援している。
- ・外来通院時や入院後、生活状況や日中活動、自助グループへの参加状況などを確認し、必要に応じてケア会議を開催するが、業務の繁忙により外来で会うことが困難になっている。
- ・他の精神疾患との合併や、ミーティングに参加する以前にコミュニケーションに課題がある患者も多く、以前に比べて自助G等への参加に結びつかない。その場合、まずは医療スタッフに信頼を寄せ相談ができる事、治療継続することを目標としている。

7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

- ①支援開始後6ヶ月、1年後の外来治療継続率。
- ②自助グループまたは回復施設参加率。
- ③支援開始後のその他の社会資源利用率。

【(静岡県①)事業の実施状況】 聖明病院 (アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和元年9月27日～令和2年3月31日

2. 支援対象者

聖明病院受診後（退院後通院者含む）の依存症者及び家族。

3. 専門職員の職種と主な業務

看護師・精神保健福祉士・心理士・院内自助グループ担当職員

- ・退院後依存症者並びに家族・県断酒会を招き、入院中の患者と病院職員で定例会の開催。職員は、企画・連絡調整・設営・運営を行う。1回/月
- ・上記定例会の拡大例会として年2回、各分野の講演者による特別講演と断酒継続者（3・5・10年）の表彰を実施。職員業務は同上。
- ・県内の静岡ダルク・スルガダルクが当院会議室で、退院後依存症者・入院中の患者が参加しダルクメッセージ（当事者ミーティング）の開催。職員は、連絡調整・設営・運営補助を行う。1回/週
- ・当院デイケアにおいて、退院後の患者に対し実施する、認知行動療法を活用した集団療法に静岡ダルクスタッフが当院職員と共同して実施。1回/週

取組の効果や課題

【取り組みの効果】 静岡ダルクと連携した、依存症専門デイケアが、再飲酒と薬物再乱用の防止に効果を発揮している。回復者がコ・ファシリテーターとして、集団認知行動療法で指導的役割を果たしている。

【今後の展望】 外来患者・入院患者ともに回復者と触れ合うことが可能となり、速やかな地域移行にも繋がっている。今後もこの取り組みを継続し、開かれた医療を実践していきたい。

【課題】

院内自助グループ「T A C T」と断酒会の交流の場として、「あしたばの仲間交歓会（拡大定例会）」を行っているが、最近断酒会会員の減少が目立ち、交歓会自体が縮小傾向にある。今後断酒会と連携し、予防啓もう活動を行うことで、潜在患者の掘り起こしを行う。

支援の内容

4. 連携している民間支援団体

静岡県断酒会・静岡ダルク・スルガダルク

5. 民間支援団体との連携内容

- ・院内で県断酒会の各支部会員を招いて断酒定例会を開催。
- ・院内でダルクメンバーを招いて当事者ミーティングを開催。
- ・ダルクスタッフと共同して、回復プログラム（集団療法）の実施

6. 繼続的な支援の手法や内容

県断酒会の各支部及び県内ダルクへの連絡調整。依存症者並びに家族の同意の基、断酒会・ダルクへの紹介により、支援団体（自助グループ）に繋げる
当院退院後の依存症者で断酒継続者表彰のための連絡により現況確認。

7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

断酒率、薬物再使用率、医療継続率。

事業の基本情報

1. 事業期間

令和元年8月16日～令和2年3月31日

2. 支援対象者

アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症の患者及び家族（入院・外来）

3. 専門職員の職種と主な業務

医師・看護師・精神保健福祉士・臨床心理士
クリニックパスを柱に依存症の援助（治療）を行っている。

- ・集団精神療法（グループワーク）の運営（Dr・Psw・Cp）
- ・家族会・家族教室の実施（Dr・Ns・Psw）
- ・院内他職種カンファレンス
- ・入院時より患者担当制（Psw）
日常生活や外出泊の相談、家族との調整、自助Gの案内等を行っている。

4. 連携している民間支援団体

断酒会、AA、GA、NA、ダルク、えある（GAの家族会）

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

- ・院内例会…アルコール依存症のミーティング。毎週金曜日19:00～21:00
支援対象者に回復者（自助Gメンバー）の体験談を聞く場面として開催。
入院・外来・自助Gメンバー誰でも自由に参加できる。
- ・サクセス（院内呼称）…薬物依存症のミーティング。毎週金曜日19:00～20:00
入院・外来患者・NA・ダルクのメンバー等自由に参加できる。
- ・GA…GAが主催するギャンブルミーティングに当院で場を提供している。
- ・断酒会員と話そう会…毎月第4土曜日10:30～開催。断酒会員と患者が直接話すことにより、依存症や断酒会への偏見を払拭し参加しやすい環境作りに努めている。

6. 繙続的な支援の手法や内容

- ・院内依存症プログラム…入院中、デイケア通所中の患者にプログラムを実施。自助Gへの参加を促し体験談を聞く機会や回復者のイメージを持ってもらえる様支援している。
- ・断酒同窓会…当院の退院者を対象として年1回同窓会を開催。依存症に関する講演会や本人・家族の体験談などを実施。往復はがきで参加の有無と現状の確認を行っている。
- ・総合病院での研修…近隣の総合病院にて、依存症についてスタッフ向けの研修を実施。
依存症患者の早期発見・介入、専門医療機関や自助Gに繋ぐことを目的として啓発活動を行う。
- ・その他…酒無し忘年会、自助グループ例会、記念大会などに当院の専門職も参加し、断酒継続の確認や回復と再発などの相談を受けている。家族の集いに参加し、家族支援も行っている。

取組の効果や課題

【取組の効果】

自助グループ（断酒会、AA、NA、ダルク）等と連携しミーティングを開催することで、各グループへのスムーズな橋渡しができ、その結果再飲酒や薬物の再使用防止に繋がっている。患者の同意を得た上で継続的、定期的に病院側から繋がることで、受診後の患者の現況を把握できている。

【今後の展望】

今後も引き続き総合病院にて研修を行う予定。近隣総合病院職員への依存症啓発のきっかけになることを期待している。

依存症治療拠点機関としての役割が明確にできればと考えている。

各務原病院 (アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

事業の基本情報

事業期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

支援対象者

アルコール依存症者

薬物依存症者

ギャンブル依存症者

専門職員の職種と主な業務

職種：医師・精神保健福祉士

業務：アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症患者に対し、受診後又は退院後に民間支援団体と連携しながら継続し、生活上の問題の確認や地域の社会資源の情報提供、助言、指導を行う。

連携している民間支援団体

- ・ナルコティクスアノニマル
- ・ダルク（岐阜・名古屋・三河等）
- ・デトックスセンターai
- ・グループホーム四季

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

アローズ（少人数制完全クローズドミーティング）

依存者であり、かつ専門家を招きミーティングを行う。

協力者は、精神保健福祉士、サービス管理責任者、相談支援専門員でかつ依存症者。

ミーティング参加者は毎日のクローズドミーティング参加を基本とする。

※クローズドミーティング：依存者のみのミーティング、支援者も依存者に限る。

6. 継続的な支援の手法や内容

- ・事前教育（個別）
- ・365日のミーティングの開催（入院・外来患者の送迎、自助グループへの参加）
- ・イベントの参加（宿泊等）
- ・家族教育（少年鑑別所で月2回）

上記事項に当事者職員が同伴して行動を共にする。

初期2年はミーティングに参加を継続。

依存行為を脱し、1年を目安として就労支援を行う。

平均して空酔い状態が2年半程続くので、その間は支援対象とする。

7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

- ① 基本的な日常生活の確立（起床、食事、保清、清掃、就寝）
- ② 自助グループの継続的参加とサービス活動ができる。
- ③ 就労の開始及び継続ができる。

取組の効果や課題

別紙参照

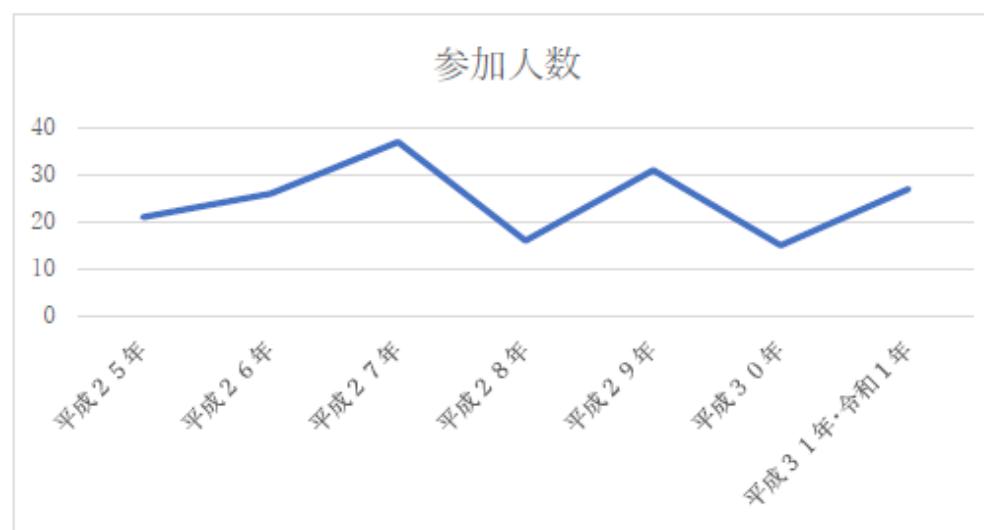
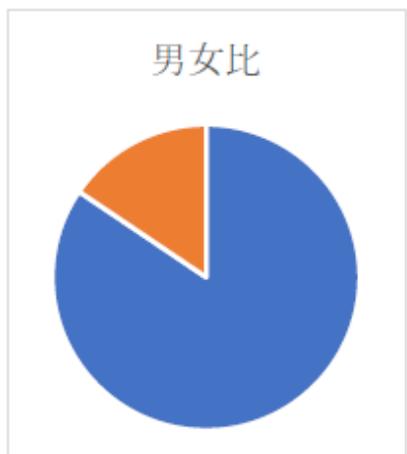
<取り組みの課題や結果> 経時的データ

平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年・令和1年
21	26	37	16	31	15	27

N 値 = 176

男性	84.4
女性	15.5

% (N=176)



【(愛知県事業)の実施状況1】 医療法人成精会 割谷病院 「SBIRTSを用いた患者支援の試み」

事業の基本情報

- 事業期間
令和元年7月1日から令和2年3月31日
(平成30年11月より継続して実施)

- 支援対象者
アルコール依存症の外来および入院患者の中で、説明書面を交付し、患者本人の同意が得られた者

- 支援の手法
SBIRTS (Screening : スクリーニング、Brief Intervention : 簡易介入、Referral to Treatment & Self-help groups : 専門治療と自助グループへの紹介) を用いた支援

- 専門職員の職種と主な役割
医師
 - アルコール依存症の外来および入院患者に、依存症から回復するためには、医療機関と民間支援団体（自助グループ）が連携し、継続的に支援する必要があることを説明し、電話によって自助グループにつなぐSBIRTSを行う。
 - 精神保健福祉士および看護師と共に、患者の相談業務や事後調査を実施

精神保健福祉士

- 医師、看護師と共に患者の相談業務を実施

看護師

- 医師、精神保健福祉士と共に患者の相談業務や事後調査を実施
- SBIRTSを行った患者のデータ管理
- 民間支援団体を訪問し連携を図ると共に、支援対象者の状況確認を実施
- 行政等関係機関との連絡調整

- 連携している民間支援団体
愛知県断酒連合会、AA刈谷グループ、三河ダルク

支援の内容

6. 民間支援団体との連携内容

- 対象者（場合によってはその家族）に対し直接断酒会員から断酒会の案内を行い、例会参加につなげる

<手法>

- ・診察場面で医師が断酒会の説明をし、同意が得られた患者に同意書を渡し、その旨をカルテ記載する
- ・外来看護師が県内断酒会の電話対応一覧を基に直接断酒会員（県内に14名）に連絡を入れ、医師が患者の状況を説明する（患者の住居地域の断酒会員に連絡が繋がらない場合に、優先して連絡を入れる会員が決められていて携帯電話に連絡する）患者本人及び家族に電話をわり、断酒会員と直接話をする
- ・電話終了後に医師または看護師が、断酒会員より状況を聞きカルテに記入する
- ・看護師は患者が希望する断酒会例会場の位置を確認し案内、例会予定表を渡す
- ・再来診察時に定期的に事後調査を行ない、必要時は民間団体に連絡する

- 院内外で民間支援団体の支援員とミーティングを開催する

- 民間支援団体が開催する家族教室や講演会等に講師として参加するなど、民間支援団体との協力・連携強化を図る

7. 継続的な支援の手法や内容

- 対象者の治療の継続状況・再飲酒の状況・自助グループの参加状況を確認し状況に応じ介入及びサポートを行う。必要に応じて自助グループ等の民間支援団体と連携し支援していく

<手法>

- ・対象者の状況（断酒会への参加状況や生活状況、困りごと等）については、対象者の受診時に直接、または電話によって、医師、精神保健福祉士又は看護師等が確認し、必要に応じて助言等を行う
- ・対象者に直接確認できないなど状況によっては、当院から断酒会へ直接確認する

8. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

- ・SBIRTS実施件数
- ・SBIRTS事後調査

取組の結果・考察及び今後の課題

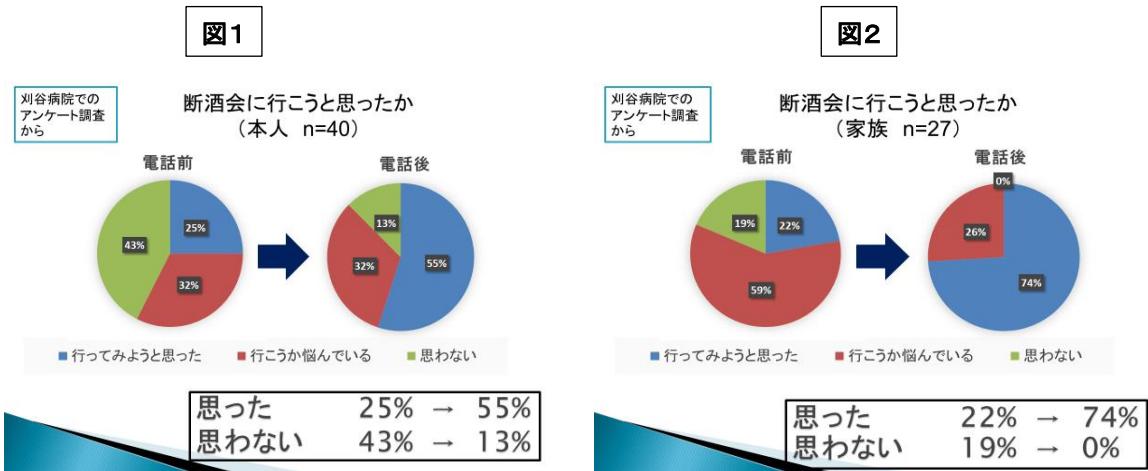
BIRTS実施後、継続的に事後調査し、その効果を蓄積する

【調査対象者】

- SBIRTS実施件数54人（本事業開始時の平成30年11月以降から令和2年1月21日現在）
- 事後調査対象者のうち3ヶ月経過時の調査対象者が54名中46名
- 事後調査対象者のうち半年経過時の調査対象者が54名中33名
- 3か月経過時以降受診は出来ているが自助グループに不参加者22名

【結果】

- SBIRTSを行った患者や家族の中には、受診時に断酒会員と直接話ができることで、前向きに気持ちが変化したケースもある。外来看護師によるSBIRTSのアンケート調査では右図のような成績を収めている
- SBIRTS後のアンケート調査では断酒会に行こうと思ったかの問い合わせに対して、本人は「思った」が25%から55%に、「思わない」が43%から13%に（図1）、家族は「思った」が22%から74%に「思わない」が19%から0%と大きく変化した（図2）



- 実際に自助グループに参加したり、継続的に自助グループに繋がっているケースは以下のようになっている（表1）
- 3ヶ月経過時：8.7%（46人中4名）、半年経過時：24.2%（33名中8名）
そのうち完全断酒者 3ヶ月経過時：75%（4名中3名）、半年経過時：75%（8名中6名）

表1

	SBIRTS実施者のうち 状況把握できた人数 (A)	自助G参加人数 (B)	参加率 (B) / (A)	完全断酒人数 (C)	完全断酒率 (C) / (B)
3か月後	46人	4人	8.7%	3人	75%
6か月後	33人	8人	24.2%	6人	75%

取組の結果・考察及び今後の課題

- ・3か月経過時以降の受診は継続できているが自助グループに不参加22名の飲酒状況 完全断酒27.3%、概ね断酒4.5%、頻度減少36.4%、変化なし27.3%、悪化4.5%（表2）

○3か月経過時以降の受診は継続しているが自助グループに不参加な人（22人）の飲酒状況

表2

飲酒状況	割合 (%)
完全断酒	27.3
概ね断酒	4.5
頻度が減少	36.4
変化なし	27.3
悪化	4.5

- ・6か月経過時の自助グループ参加者が3か月経過時より増加している4名のうち2名は、家族が院内の家族教室に参加されることで理解が深まり支援されていた。また、4名のうち2名は院内自助会に参加されており、通いやすさも一步が踏み出せた要因と考えられる。院内スタッフや入院中の患者、自助グループの利用者とコミュニケーションを取られ、診察を継続しその間の自身を振り返り評価を受けることがモチベーションとなっていると思われる。
- ・特に、SBIRTSで断酒会員と直接話をした時には瞬間的に患者や家族の気持ちの向上が見られるが、その思いを継続することと例会場へ直接足を運ぶための、「例会場に行ってみたい気持ち」になる前向きな情報と勢いが必要を感じる。そのため、外来看護師とこの事業の担当看護師が協働し2点の新たな試みを開始した。
 - (1) SBIRTSを行なった後に、外来看護師より例会一覧と共に院内自助会「めばえ」を案内。院内で開催されるため来所しやすい、会員登録等が不要であり和やかな雰囲気で敷居が低い、地域の自助グループの会員も複数参加しているため自助グループの話が聞ける等のメリットがある。
 - (2) SBIRTSの直後に例会場の位置がわかる県内の地図を用いて、外来看護師が自宅からの距離や交通手段を確認し、行ってみたい例会場をリストから選んでもらい、院内で作成した個々の例会場資料（地図・建物の写真・住所・駐車場や会場の詳細案内）を渡して自助グループについて詳しく案内する。例会場資料はこの事業の担当看護師が各例会場へ直接足を運んだり電話で確認して自助グループと連携しながら作成している。

【考察】

- ・自助グループに繋がることで断酒率は高くなることから、SBIRTSを行なった後の患者や家族の理解度に合わせ、自助グループ参加を実現するための個別の状況に応じた情報提供等の対応が重要と考える。
- ・自助グループの利用者や家族から「実際にやってみたが例会予定表だけでは場所が分からずたどり着けなかった」等の意見も聞かれていたため、各例会場の詳細が書かれた案内を手にすることによってSBIRTS直後の「行こうと思った」と感じた時の思いを後押しできるのではと期待できる。
- ・SBIRTSを行なうことで個々に合った様々な情報が患者、家族に提供でき支援する方法の一つになっていることは、本事業の効果ではないかと推察される。

【課題】

受診後の患者にさまざまな手段を使って、継続的に関わるためのマンパワーが必要

事業の基本情報

1. 事業期間

令和元年8月～令和2年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症（入院・外来とも）

3. 専門職員の職種と主な業務

（2医療機関とも）

職種：看護師

業務：医師の指示のもと、自助グループ紹介の動機づけ面接

自助グループの連絡調整

自助グループミーティングへの参加支援

院内多職種でのカンファレンス実施

自助グループとの連携についての課題整理

県が実施する治療拠点機関・専門医療機関連携会議への出席

4. 連携している民間支援団体（予定含む）

三重断酒新生会、AA中部北陸セントラルオフィス、三重ダルクなど

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

入院、外来患者において、自助グループへの紹介が適当と思われる患者について、医師の指示のもと、自助グループを紹介。

自助グループは、電話、病院への訪問等により、当該患者と面接や自助グループへの参加支援を行う。事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携を図りながら、協働して支援を行う。

6. 継続的な支援の手法や内容

事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携をとり、自助グループ紹介患者が、継続して自助グループに参加し、断酒が継続できるよう支援を行う。

また、自助グループへの参加が継続できなかった者について、外来受診時などに面接を行うなどして、本人の気持ちに寄り添った支援を行う。

事業実施医療機関は、自助グループへの参加が継続できなかった事由やその課題について、自助グループと協議を行うとともに、必要に応じ、治療拠点機関・専門医療機関連携会議の場で協議を行う。

7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

自助グループへの紹介率

取組の効果や課題

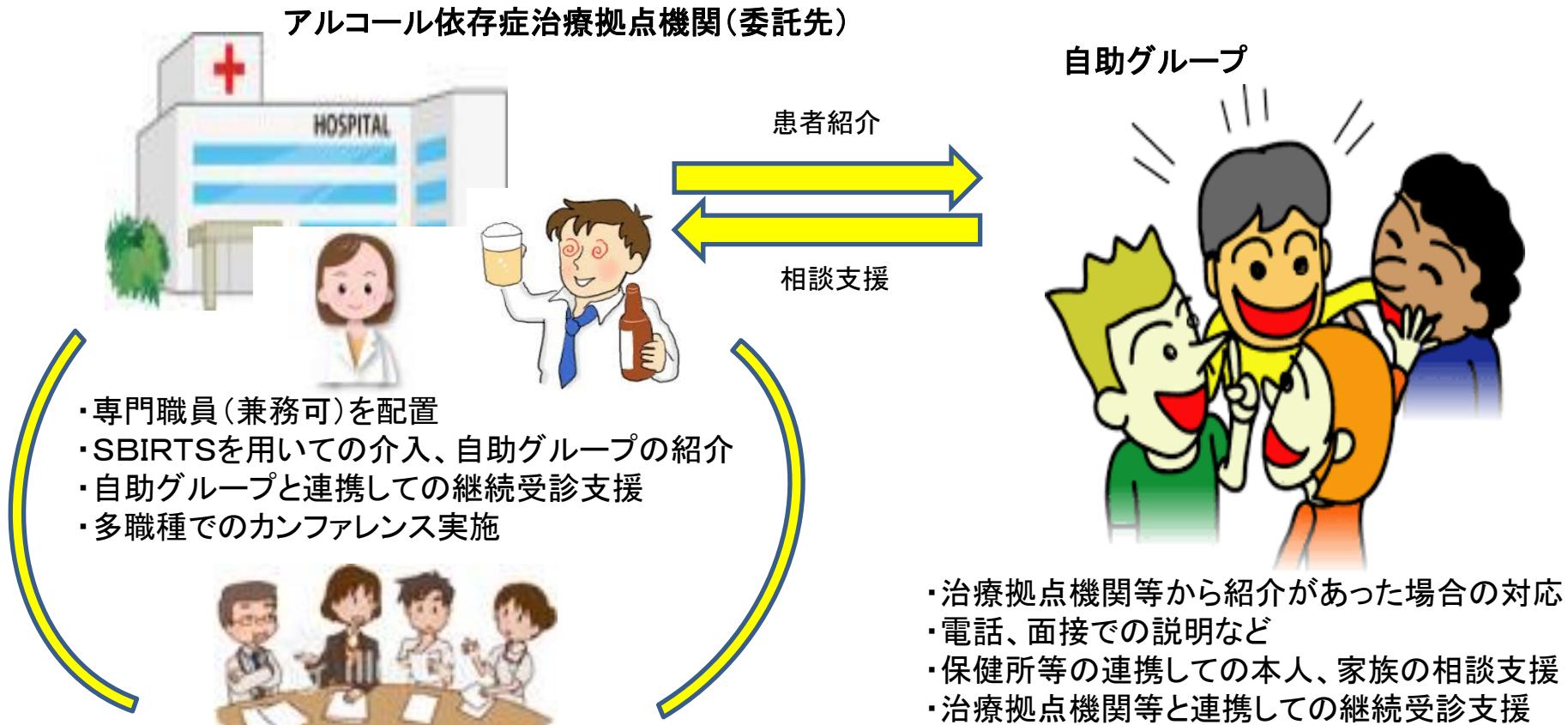
【取組の効果や今後の展望】

平成30年度は3ヶ月分であり症例が少なく、その後の経過についての把握もこれからである。しかしこの事業をきっかけに治療拠点機関・専門医療機関連携会議を立ち上げることができ、介入研修の開催をとおして、人材育成につながっている。さらに今後①断酒継続者の増加、②治療拠点機関・専門医療機関とのグループとの連携強化、③自助グループのさらなる活性化につながることを期待している。

【課題】

補助金の内示時期の都合から委託事業を開始できるのが、年度途中となってしまうので、通年でのデータ積み上げができにくい。

三重県アルコール依存症患者受診後支援モデル事業



【令和元年度実施スケジュール】

令和元年8月～事業の開始 ～令和2年3月末まで

7月29日アルコール依存症治療拠点機関との打ち合わせ

11月12日第1回アルコール依存症治療拠点機関・専門医療機関連携会議の開催

令和2年3月7日介入講座の開催(予定)

【(大阪府)事業の実施状況】 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

2. 支援対象者

当センター入院及び通院患者（アルコール/薬物/ギャンブル等）
のうち、事業の同意が取れた者

3. 専門職員の職種と主な業務

- 職種
精神保健福祉士、看護師
- 業務
相談業務、プログラム運営
自助グループの紹介、活動への同行支援

4. 連携している民間支援団体

AA、断酒会
NA、大阪ダルク
GA

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

- | | |
|--------|---|
| AA・断酒会 | … 外来プログラムでのミーティング運営への携わり。メッセージ活動
入院プログラムにおける自助グループへの同行支援 |
| NA | … 外来プログラムでのメッセージ活動 |
| GA | … 外来プログラムでのメッセージ活動 |

6. 繼続的な支援の手法や内容

- 個別あるいは複数人での自助グループへの同行支援の実施。
- 院内での外来プログラムでは近隣のAA・断酒会メンバーが運営に携わり、同行支援に加え双方向的な支援・関わりの実施。
- 必要に応じて、再度の同行支援を行う。

7. 事業の効果を図る指標（共通指標以外）

プログラムへの参加状況・継続率
自助グループからの情報確認

取組の効果や課題

【取組の効果や今後の展望】

自助グループメンバーが院内プログラムの運営に携わることに加え、自助グループへの同行支援を実施することで、初回訪問の心理的なハードルが低減する。特に同行支援はスタッフと一緒に時間を共有しながら、自助グループの重要性について認識する機会にもなり、患者とスタッフの両方にとって意味が大きい。また当センタースタッフと自助グループメンバーとが定期的に顔を合わせる機会がさらに増えたことにより、両者の関係づくりにつながる。

今後、各対象の依存症患者において、複数の民間団体との連携を視野にいれ、患者にあった自助グループへのつなぎを進めていきたい。

【課題】

継続的に自助グループへ参加できるような支援・働きかけ
予後調査を含めた同意書の取得及び、現況調査について